平成 24 年 3 月 17 日

各　　位

会 社 名　株 式 会 社 マ ル マ エ
代表者名　代表取締役社長　前田　俊一
（ コード番号：6264　東証マザーズ ）
問合せ先　取締役管理部長　藤山　敏久
（ TEL. 0996-64-2900 ）

平成 24 年２月度 月次受注残高についてのお知らせ

当社は、投資家をはじめとするステークホルダーの方々に、より正確に当社を理解していただくために、自社情報のタイムリー・ディスクロージャーを推進しておりますが、この一環として、下記のとおり当期平成 24 年２月度月次受注残高情報を開示いたします。

記

１．月次受注残高　　（百万円未満切捨て）

区分	受注残高	割合	対前月増減率	対前年同月増減率
ＦＰＤ分野	16	15.6%	△62.0%	△69.8%
半導体分野	39	36.8%	27.9%	△60.3%
太陽電池分野	0	0.0%	―	―
その他	51	47.6%	5.6%	―
合計	107	100.0%	△12.9%	△36.6%

２．月次受注残高の推移　　（百万円未満切捨て）

区分	H23.3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
ＦＰＤ分野	※91	※135	※144	156	188	159
半導体分野	51	30	※35	35	28	34
太陽電池分野	5	0	0	0	0	0
その他	1	2	0	1	0	2
合計	※148	※168	※181	194	217	196

区分	9 月	10 月	11 月	12 月	H24.1 月	2 月
ＦＰＤ分野	168	113	71	51	44	16
半導体分野	21	46	35	35	31	39
太陽電池分野	0	1	0	0	0	0
その他	0	1	1	5	48	51
合計	191	162	109	92	123	107

※四半期決算処理に伴う修正を行いました。

３．月次受注残高の概況

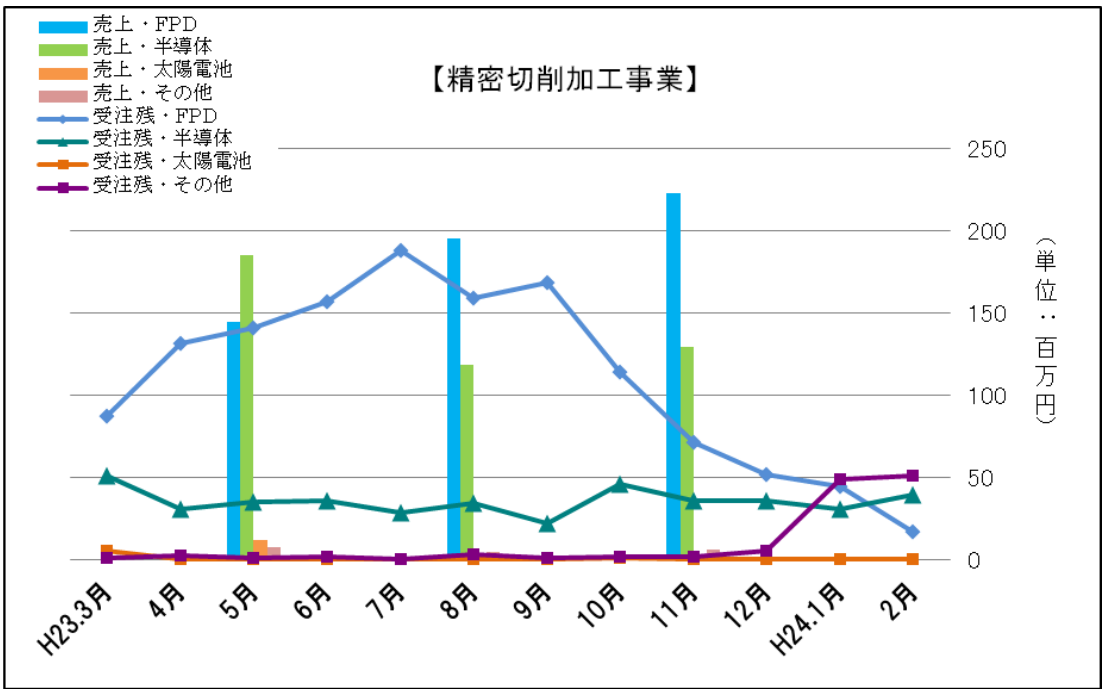
平成 24 年２月末の受注残高は、ＦＰＤ分野においては、出荷検収が順調に進みながらも受注の停滞が続いていることにより、対前月増減率で 62.0%減、対前年同月増減率では 69.8%減の 16 百万円となりました。また、半導体分野においては、出荷検収が進みながらも受注も堅調に推移したため、対前月増減率 27.9%増、対前年同月増減率 60.3%減の 39 百万円となりました。一方、その他分野においては先月受注獲得した原子力関連の案件で生産が継続しつつ、新規顧客の受注も拡大している事から、対前月増減率 5.6%増の 51 百万円となりました。なお、太陽電池分野の受注においては、大きな動きはありませんでした。これらの結果、対前月増減率 5.6%減、対前年同月増減率 36.6%減の 107 百万円となりました。

今後の受注見通しといたしまして、ＦＰＤ分野においては、しばらく低調な推移を予想しておりますが、当期第４四半期以降は国内外の中小型生産設備投資が再拡大する見通しであります。半導体分野においては、国内メーカーの需要は停滞しておりますが、海外エンドユーザーの需要は比較的好調であり、しばらくは横ばいが続く見通しを持っております。太陽電池分野においては、当社の得意とする薄膜シリコン系の停滞は続いており、回復時期は不透明です。また、その他分野では、ＦＰＤ分野における受注停滞を補うため新規顧客への営業活動を活発化しており、段階的な増加を目論んでおります。

全般的には、市場環境の停滞が続いておりますが、当社では社内生産力を試作品と短納期品に大胆に振り向けて、新規の消耗部品とリピート品の受注拡大を図っております。また、社内生産力でまかなえない受注の拡大には協力企業との取引拡大で対応するなど、市場環境変動に影響されにくい構造改革に取り組んでおります。

以　　上

(参考：分野別　過去一年間の四半期売上高と月次受注残高の推移)



注 1. 上記受注残高の数値は、速報値であるため、翌月以降に修正される可能性があります。また、監査法人による会計監査を受けておりませんので、本決算の数値とは差異が発生する可能性があります。

2. 当社の受注残数値は、受注別に長短さまざまなリードタイムを持つことから、売上高と直接関連するものではありません。リードタイムの長い案件が増えると受注残が多くなり、リードタイムが短いか当社月間生産能力範囲内の受注が増えると受注残が減る傾向となっております。